

# 新たな提案に対する検討

本資料は、パブリックコメントの整理番号45に対して、検討主体の考え方を補足する資料として作成したものです。

平成28年6月21日

国土交通省 関東地方整備局  
独立行政法人 水資源機構

# 東大芦川に建設する洪水調節専用ダムによる治水対策案

## ■治水対策案の概要

- ・河川整備計画に盛り込まれている河道改修等を実施するとともに、東大芦川に洪水調節専用のダムを建設する。また、ダムの治水効果が及ばない南摩川の区間においては、流下能力が不足する箇所を河道掘削を行い、河川整備計画と同程度の治水安全度を確保する。

※治水対策案の立案にあたっては、関係機関や地権者等の関係者との事前協議や調整は行っていない。  
 ※対策箇所や数量については、現時点のものであり、今後変更があり得るものである。

思川開発事業を含む治水対策案より思川開発事業を除いた事業内容に追加する主な事業内容

□洪水調節施設  
 東大芦川に建設する洪水調節専用ダム

□河道改修  
 河道掘削 約10万m<sup>3</sup>

・完成までに要する費用 約210億円

## ■東大芦川に建設する洪水調節専用ダムの諸元

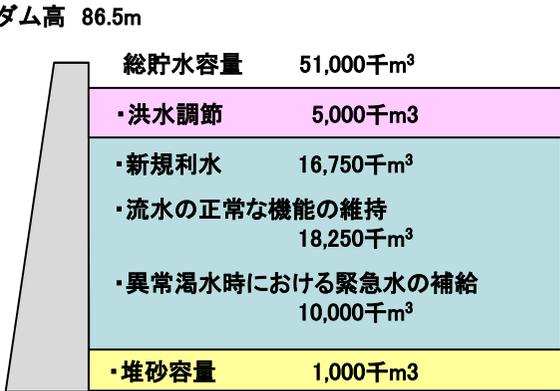
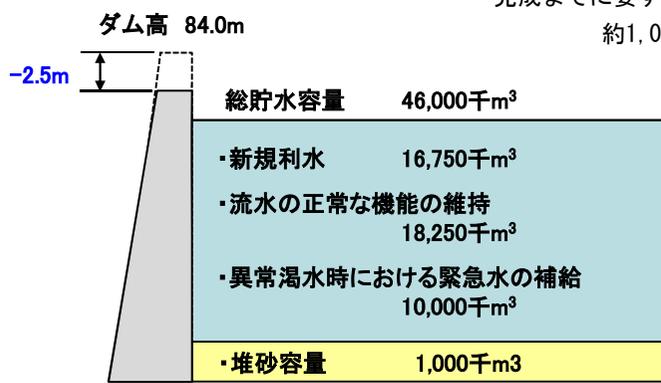
ダム	
ダム形式	重力式コンクリートダム（流水型）
堤高	47.5m
ダム天端標高	E. L. 481.5m



## 【総合的な評価】「東大芦川に建設する洪水調節専用ダム＋南摩ダム案」

### ■ 複合代替案の概略検討

- ・洪水調節については東大芦川に建設する洪水調節専用ダム、洪水調節以外の3目的については南摩ダム案とし、これらの組み合わせ案を検討

ダム案（南摩ダム単独） [1,040億円]	東大芦川に建設する洪水調節専用ダム ＋ 南摩ダム案 [1,260億円]												
<p>【4目的ダム】 南摩ダム案</p>  <p>ダム高 86.5m</p> <table border="1"> <tr> <td>総貯水容量</td> <td>51,000千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・洪水調節</td> <td>5,000千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・新規利水</td> <td>16,750千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・流水の正常な機能の維持</td> <td>18,250千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・異常渇水時における緊急水の補給</td> <td>10,000千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・堆砂容量</td> <td>1,000千m<sup>3</sup></td> </tr> </table>	総貯水容量	51,000千m <sup>3</sup>	・洪水調節	5,000千m <sup>3</sup>	・新規利水	16,750千m <sup>3</sup>	・流水の正常な機能の維持	18,250千m <sup>3</sup>	・異常渇水時における緊急水の補給	10,000千m <sup>3</sup>	・堆砂容量	1,000千m <sup>3</sup>	<p>【洪水調節】 東大芦川に建設する洪水調節専用ダム案</p> <p>ダム高 47.5m</p> <p>完成までに要する費用 約210億円</p>  <p>・洪水調節 1,800千m<sup>3</sup></p>
総貯水容量	51,000千m <sup>3</sup>												
・洪水調節	5,000千m <sup>3</sup>												
・新規利水	16,750千m <sup>3</sup>												
・流水の正常な機能の維持	18,250千m <sup>3</sup>												
・異常渇水時における緊急水の補給	10,000千m <sup>3</sup>												
・堆砂容量	1,000千m <sup>3</sup>												
	<p>【利水・不特定・渇対】 南摩ダム案（縮小案）</p> <p>ダム高 84.0m</p> <p>完成までに要する費用 約1,050億円</p>  <p>総貯水容量 46,000千m<sup>3</sup></p> <table border="1"> <tr> <td>・新規利水</td> <td>16,750千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・流水の正常な機能の維持</td> <td>18,250千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・異常渇水時における緊急水の補給</td> <td>10,000千m<sup>3</sup></td> </tr> <tr> <td>・堆砂容量</td> <td>1,000千m<sup>3</sup></td> </tr> </table> <p>(容量見直しに伴う費用)</p> <table border="1"> <tr> <td>・ダム堤体の工事に伴う建設コスト</td> <td>-13億円</td> </tr> <tr> <td>・本体設計等見直し及び工期3年間延長によるコスト</td> <td>+22億円</td> </tr> </table>	・新規利水	16,750千m <sup>3</sup>	・流水の正常な機能の維持	18,250千m <sup>3</sup>	・異常渇水時における緊急水の補給	10,000千m <sup>3</sup>	・堆砂容量	1,000千m <sup>3</sup>	・ダム堤体の工事に伴う建設コスト	-13億円	・本体設計等見直し及び工期3年間延長によるコスト	+22億円
・新規利水	16,750千m <sup>3</sup>												
・流水の正常な機能の維持	18,250千m <sup>3</sup>												
・異常渇水時における緊急水の補給	10,000千m <sup>3</sup>												
・堆砂容量	1,000千m <sup>3</sup>												
・ダム堤体の工事に伴う建設コスト	-13億円												
・本体設計等見直し及び工期3年間延長によるコスト	+22億円												

【別紙】

■提案に対する現計画等との関係

目的	現計画(思川開発)	頂いたご提案(整理番号45)	
		ご提案	目標との関係
洪水調節  効果発現対象 (必要容量)	南摩川、思川、利根川 (5,000千m <sup>3</sup> )	【東大芦川ダムの再開】 大芦川、思川、利根川 (東大芦川ダム計画 3,450千m <sup>3</sup> ) 【南摩川ダムの規模縮小】 南摩川、思川、利根川 (現計画 5,000千m <sup>3</sup> )	・計画の目標を上回る対策案の計上 (2ダム分の治水容量(対策)を計上)
新規利水  効果発現対象 (必要容量)	栃木県、鹿沼市、小山市 古河市、五霞町、埼玉県、北千葉 (16,750千m <sup>3</sup> )	【東大芦川ダムの再開】 鹿沼市 0.2m <sup>3</sup> /s (東大芦川ダム計画 820千m <sup>3</sup> ) 【南摩川ダムの規模縮小】 栃木県、小山市 古河市、五霞町、埼玉県、北千葉 (鹿沼市分の貯水容量を減らす)	・計画の目標を達成する。 (2ダムで必要な開発量と合致)
流水の正常な機能の維持  効果発現対象 (必要容量)	南摩川、黒川 大芦川、思川、利根川 (18,250千m <sup>3</sup> )	【東大芦川ダムの再開】 大芦川、思川 (東大芦川ダム計画 4,740千m <sup>3</sup> ) 【南摩川ダムの規模縮小】 南摩川 (貯水容量を減らす)	・黒川導水路の廃止により、計画の目標とする黒川への補給が不可能
異常渇水時の緊急水の補給 効果発現対象 (必要容量)	利根川 (10,000千m <sup>3</sup> )	全 廃	・計画の目標を達成しない
堆砂容量 (必要容量)	(1,000千m <sup>3</sup> )	(600千m <sup>3</sup> )	—
		※目標と同程度ではない対策案のため採用は困難。	



東大芦川に建設する洪水調節専用ダム +南摩ダム案 (仮に現計画の目標を達成できる案)
【東大芦川に建設する洪水調節専用ダム案】  大芦川、思川、利根川 (1,800千m <sup>3</sup> )
【南摩ダム案】  栃木県、鹿沼市、小山市 古河市、五霞町、埼玉県、北千葉 (16,750千m <sup>3</sup> )
【南摩ダム案】  南摩川、黒川 大芦川、思川、利根川 (18,250千m <sup>3</sup> )
【南摩ダム案】  利根川 (10,000千m <sup>3</sup> )
(1,000千m <sup>3</sup> )
※2ダムで目標を達成する対策案

※頂いたご提案は、現計画と同程度の目標を達成できないため、2ダムで目標を達成する案を別途検討。

※洪水調節は、東大芦川に建設する洪水調節専用ダム、新規利水、流水の正常な機能の維持、異常渇水時の緊急水の補給は、最もコスト面で有利な南摩ダム案を組み合わせで検討。